

エキスパート研修について

1、エキスパート研修とは

エキスパート研修は5領域を開講する。領域は看護学領域、薬学領域、栄養学領域、検査学領域、理学療法学領域とする。領域は研修の内容を示すものであり、職種を表すものではないため、糖尿病療養指導士兵庫認定者が、エキスパート認定を申請するために受講する研修はどの研修でも構わないが、自己の職種に関する領域を収めることが望ましい。

エキスパート研修は、「一般目標（GIO）」として、学習者がその授業の学習の結果期待される成果を総括的に示したものであり、「到達目標（SBOs）」として、知識・技能・態度の3つの領域においてどのようなことができるようになることが望ましいかを具体的に記述する。このことから、掲げられたSBOsがすべて達成できたとき、GIOが達成されたことになる。

2、エキスパート研修修了証について

エキスパート研修時に、知識・技能・態度を評価する試験を実施し、基準に達したと認められたときに、研修修了証を発行する。

3、エキスパート研修の費用

エキスパート研修の受講料は、1回につき規定^(注1)通りとする。受講料の中に修了証を発行するための試験料を含むが、試験を受けない場合でも同額とする

4、エキスパート研修の内容について

エキスパート研修の内容は別に定めるが、定期的に内容を見直すこととし、CDE兵庫認定者へは、研修開催の前年度に周知する。(例外、2023年度は研修年度の周知となる)

現在の内容は以下の「エキスパート研修の項目」に記す。

(注 1:) エキスパート研修受講料の算定基準：エキスパート研修会の開催時間から算出するものとし、2時間当たり1000円とする。

エキスパート研修の項目

エキスパート研修の「一般目標（GIO）」と「到達目標（SBOs）」は次のとおりとする。

（1）看護学領域

研修項目	一般目標（GIO）	到達目標（SBOs）	知識	技能	態度
アセスメント能力	糖尿病患者の身体面・心理面・社会面をライフステージやライフイベントを踏まえ、適切な理論を選択し、患者の状態を分析・評価することができる。	ライフステージごとの特徴について理解している（乳幼児期、学童期、思春期、妊娠・出産期、就労期、高齢期）	○		
		アセスメントに必要な情報を収集することができる〔身体的所見、コントロール状態、治療に関すること、合併症の有無と程度、生活状況・ライフスタイル、ライフイベント、心理面、認知機能面、本人の疾患の理解、家族背景（家族の疾患への理解や盛力体制など）と社会活動〕	○	○	
		患者の状態を分析・評価するときを活用できる理論の特徴について理解している（セルフケア理論、慢性疾患病みの軌跡モデル、変化ステージモデル、自己効力感、エンパワメントなど）	○		
		各症例をアセスメントするために適切な理論の選択・活用することができる	○	○	
セルフケア支援	様々な困難な状態にある患者に対して、患者の状況に応じたケアを提供することができる。	必要な情報をもとにアセスメントし、療養上の問題点を抽出することができる	○	○	
		セルフケア行動を促す実践方法について理解している	○		
		糖尿病患者への身体的や心理面、社会面へのケア支援方法を理解できている	○		
		セルフケア支援は、アセスメントをもとに目標、計画を立案することができる	○	○	
他職種連携	他職種と情報共有し、各領域の専門性を生かしながら、他職種と連携することができる。	糖尿病患者へ計画したセルフケア支援を提供することができる	○	○	○
		立案した計画を実践し、目標や計画の評価・修正することができる	○	○	
		セルフケア支援において、他職種それぞれの専門性について理解している	○		
		アセスメントやセルフケア支援について根拠をもって他職種に説明することができる	○	○	○
		他職種との連携のなかでそれぞれの職種としての役割を見出すことができる	○	○	

（2）薬学領域

研修項目	一般目標（GIO）	到達目標（SBOs）	知識	技能	態度
注射薬	安全かつ有効な薬物療法を導入・継続するために必要な糖尿病治療用注射薬の特徴、作用機序、副作用、体内動態、相互作用、禁忌などについて習熟し、適正な取り扱いと血糖管理について説明できる	インスリン治療の絶対適応と相対適応について説明できる	○		
		薬理作用について説明できる	○		
		保管方法について説明できる	○		
		製剤の特徴について説明できる	○		
		各薬剤の警告・禁忌・慎重投与について理由を含め説明できる	○		
		頻度の高い副作用、重大な副作用について発生機序と初期症状、その時の対応を含め説明できる	○		
		打ち忘れ時の対応やショックの対応などを概説し、適切な指導を行うことができる	○	○	○
		CSII（SAP含む）の適応患者とその管理について説明できる	○	○	
		代表的なインスリン注入器による基本的な自己注射の方法について説明し、操作できる	○	○	
		安全な注射針の取り扱い、廃棄方法について説明し、注意点を列挙できる	○		
		代表的な自己注射時のトラブル事例を列挙し、対処法と予防法について説明できる	○		
		皮下硬結の生理学的発生機序が説明できる	○		
		皮下硬結予防対策が説明できる	○		
皮下硬結を触診することができる	○	○	○		

（3）栄養学領域

研修項目	一般目標（GIO）	到達目標（SBOs）	知識	技能	態度
食事の評価とフィードバック	日常生活に必要な栄養素を過不足なく摂取でき、合併症の発症と進展を抑制できる理想的な食事を理解し、糖尿病がある人の食事のサポートができる。	個人に応じた適正なエネルギー量と栄養素バランスの良い理想的な食事を提案できる	○		
		理想的な献立作成及び食事（食品、料理）の提案ができる	○	○	
		嗜好品（アルコール飲料、嗜好飲料、菓子類）の摂り方について助言ができる	○		
		偏食がある場合でも代替りの食品、料理を提案できる	○	○	
		食事記録から、推定摂取エネルギー、食事バランスを評価することができる	○	○	
		患者の心理と行動を理解し、適切な食事の提案ができる	○	○	○
生活習慣、活動量、合併症、ライフステージ、心理などを考慮しながら個別化した食事の評価、教育ができる。	ライフステージの特徴を理解し、それに応じた食事の摂り方を提案できる	○			
	糖尿病性腎症の病期に合わせた食事を提案できる	○			

(4) 検査学領域

研修項目	一般目標 (GIO)	到達目標 (SBOs)	知識	技能	態度
血糖測定	血糖管理に必要な不可欠な血糖測定器について、目的、装置原理、操作手技、影響因子、感染管理などを理解し、患者の状態や心理的配慮をしながら説明をすることができる。	血糖自己測定 (SMBG) の目的、原理について理解している	○		
		血糖自己測定 (SMBG) の特性に基づく影響因子について理解している	○		
		血糖自己測定 (SMBG) の使用方法 (装置準備、測定環境、手技操作など) や使用後の管理について説明ができる	○	○	
		血糖自己測定 (SMBG) 記録について説明ができる	○	○	
		持続皮下グルコース測定 (CGM) の目的、原理について理解している	○		
		持続皮下グルコース測定 (CGM) の使用方法 (装置準備、装置の装着、取り外し、画面表示など) や使用後の管理について説明ができる	○	○	
		持続皮下グルコース測定 (CGM) 結果について説明ができる	○	○	
		各測定における保険適用および施設基準について理解している	○		
	血糖測定に関連する禁忌事項、検査異常値、感染管理、医療安全対策 およびこれらの緊急時対応について説明できる	○	○	○	
	患者の状態 (小児、高齢、認知機能等を含む) および心理的配慮について理解し、検査を実施する上で、状況にあった説明ができる	○	○	○	

(5) 理学療法学領域

研修項目	一般目標 (GIO)	到達目標 (SBOs)	知識	技能	態度
合併症、併存症を有する場合、および高齢者の運動	合併症を有する場合の運動療法の方法や注意点について理解し、評価の上、適切な運動療法を実践できる 高齢者や膝関節痛・腰痛の訴えを有する患者に対する運動療法の方法や注意点について理解し、評価の上、適切な運動療法を実践できる	有酸素運動、レジスタンス運動等、運動療法の基礎について理解している	○		
		合併症を有する場合の評価について説明し、実施できる	○	○	
		合併症を有する場合の運動について説明し、実践できる	○		
		合併症を有する場合のリスク管理について説明し、実践できる	○		
		合併症を有する場合の運動継続の方法について説明し、実践できる	○	○	○
		高齢者における運動療法の方法について説明し、実践できる	○		
		高齢者における運動療法の方法について説明し、実践できる	○		
		膝関節痛や腰痛のある患者に対する運動療法について説明し、実践できる	○		
	高齢者および膝関節痛や腰痛のある患者に対する運動継続の方法について説明し、実践できる	○	○	○	